

高等学校事例 I

活用場面	職員会議		
実施時期	9月中旬	活用時間	15分
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒と教員の「いじめ」と捉える認識の差を数値で実感する。</li> <li>・生徒間の認識に開きがある項目について、いじめに発展する可能性を共有する。</li> <li>・生徒の「いじめ」に対する認識について現状を把握し、今後の指導や支援に役立てる。</li> </ul>		
特色・工夫	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員会議のペーパーレス化が進み、PDFファイルの資料をタブレット端末上で閲覧することが基本であるが、タブレット端末の画面では見比べることが困難な資料は、別途プリントを用意し、配付した。</li> </ul>		
内容・流れ	<p>アンケート結果を提示しながら</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「いじめ」に対する認識について、本校教員の意識の高さを共有する。</li> <li>・いじめにつながる可能性がある行為についての注意喚起をする。</li> <li>・教員間で認識の差が生じている行為について、いじめ深刻化のリスクを確認する。</li> </ul>		
参加者の声	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒、教員ともに「いじめ」と感じる傾向が高いものでも、その差が11～17%もあることに驚いた。</li> <li>・授業で一人になっている生徒を、教員が声をかけてグループに入れることは簡単だが、本人のコミュニケーション能力と対人関係をつくることを考えると非常にシビアな問題である。</li> <li>・生徒としては「いじり」でも、教員からすると「いじめ」と思うところを指導に生かせたらと思う。</li> <li>・他の先生方も同じような意識をもっていたことが分かり、とても心強く、いじめに対して毅然とした態度で取り組んでいきたいと思う。</li> </ul>		
委員所感	<p>「いじめ」に対する認識について、教員同士の認識が共有できたことを実感している様子が見受けられた。今後、生徒を指導する際、「いじめ」と認識している行為と認識していない行為ではアプローチの方法が異なるため、その点を把握する上で有効なデータであったと思われる。アンケート調査をきっかけに、教員間で議論がしやすい環境となり、チームでいじめに対応する体制を整えやすくなったのではないかと感じる。</p>		